

序

当教育研究所は、昭和58年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿募集をしましたところ、各学校の先生方から18編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、18編のうち3編が論説、15編が実践記録となっています。論説の内容は、一つは、生涯教育の中の成人期の教育にスポットをあて、成人学習者がもつ心理的特質を5つの項目からとらえ、学習活動のあり方を示唆してくれています。

また、一つは、中学校における進路指導の課題と指導・援助の必要性についてのべ、学級担任の行う学級経営のあり方を考察したものであります。

その中で、もう一つ特筆すべきことは、本市の英語指導主事助手が外国人として実感した日本の教育についての印象を寄稿したものであります。

実践記録の内容は、学校経営に関するものを始めとして、学校における教育活動の全体像をしっかりとらえ、その上で児童生徒自らが学んでいくところに視点をあてた研究実践であり、新しい研究の方向を伺えるものであります。

いずれの論文も、最近の教育思潮を的確に把握しながら、学校経営的視点や生涯学習の視点からの研究の様子がうかがわれます。また、学校ぐるみで研究したものをはじめ、若い先生方の組織的・継続的な研究実践が多く見受けられます。

これらの特徴をもった教育論文は、読者自らの教育観を深める重大な契機となるにちがひありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも、各学校における日々の教育実践に十分生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待します。

終わりに、論文をお寄せくださった学校の先生方をはじめ、関係者の方々にお礼申し上げるとともに、みなさまのますますの御活躍を祈念して序といたします。

昭和59年3月

足利市立教育研究所長
山 崎 政 三